

外国籍県民からの意見について

【労働】

- ・派遣（契約）社員として長年勤務しているが、正規社員になれる機会が無い
- ・近年でも就職にあたって永住権が無いと正社員の採用は無い
- ・就職に係る情報提供を充実してほしい
- ・外国人採用に係る企業への助成や、一定の雇用を求める制度づくりを推進してほしい
- ・職場での不当な扱いの実態把握、是正指導をしてほしい
- ・労働問題についての相談対応をしてほしい
- ・日本語能力に考慮した職業訓練や研修講座（ヘルパー等）を実施してほしい
- ・外国籍県民の就農を支援するための相談対応をしてほしい
- ・技能実習生の適正な受入

【年金・健康保険】

- ・年金や健康保険について会社から分かりやすい説明が欲しい
- ・ずっと日本にいる予定ではないため年金には加入しない
- ・年金は払っても将来いくらもらえるか、本当にもらえるか保障がない
- ・諸外国との社会保障協定の締結を推進してほしい
- ・社保、健保について制度がよくわからない

【税金・住宅】

- ・住民税の特別徴収を推進してほしい。個人徴収だと、制度がわからないまま滞納し、払えなくなるケースがある。
- ・県営住宅の入居にあたり、保証人の確保が難しいので配慮してほしい

【災害・地域】

- ・災害についての情報は欲しいがどのようにしたらよいか分からない
- ・区費を払っていないため、回覧版が回ってこないケースもある
- ・重要なお知らせは全戸に配布してもらいたい
- ・居住地や職場からの避難場所は分かるが、外出時に非難が必要になった場合の避難場所が分からない
- ・中国では防災訓練のようなものは行わないので何のことかわからない
- ・四川大地震があつて、中国でも一部地域で実施しはじめた
- ・入国する際や転入手続きの際に、防災に関する冊子を配るなどして周知してはどうか
- ・避難場所を知らない。標識の意味がわからない
- ・日本語か英語ができない場合、情報を得ることが難しい
- ・外国人専用の情報伝達をしてくれるとよい
- ・子どもが小さいため、自分のことより子どものことが心配。学校に行っている間でも、学校との連絡がどうやって可能か不安。放送があればよい。
- ・緊急通報時の多言語サポートが必要

- ・自転車の運転ルール等を周知してほしい

【教育】

- ・公立学校における受入について、日本語及び適応指導等の体制を強化してほしい（指導体制の強化、初期指導教室の拡大など）
- ・保護者が学校とコミュニケーションを円滑に図れるよう、通知等の多言語化、通訳支援等をしてほしい
- ・進路指導、進学支援の充実
- ・外国人学校が、行政に相談する場や、意見交換の機会を設けてほしい
- ・就学年齢にあたる子どもたちが、何らかの理由で学校に通っていないケースがある

【医療・福祉】

- ・医療通訳の体制づくりが必要
- ・病気の子どもを預かる保育施設が必要
- ・育児相談対応が必要
- ・受診する際に必要な情報の多言語化

【行政要望】

《ネットワークの構築》

- ・地域に住むブラジル人の情報が欲しい
- ・土日に仕事をしている者もあり、集まるのが難しい
- ・Facebook で情報交換することはある
- ・いつも一人で悩んでいる。相談できる人がいない。中国人は多いが、嫁にきたりすると一人ぼっちである。
- ・グループはあるが、企業ごとが多く、帰国者はまた別のグループである。

《相談体制の整備》

- ・子育て相談を希望
- ・検診や小学校入学など分からないことが多いので気軽に相談できる場所が欲しい。
- ・学校での三者面談も最初は慣れないので誰か付き添ってくれとよい。
- ・子どもが学校に入学する際に提出する書類について。離婚して母子家庭の家では、わからなくても聞く人がいない。
- ・母子手帳について。ワクチンの接種歴などが、自国のものとどう対応するかわかりにくい。
- ・メンタルケアやDVに関する専門的な相談対応が必要。

《日本語学習》

- ・子どもがいる場合、日本語教室に行くために家族に預けなければならないが、タイでは子の面倒を気軽にみてもらえるが日本では頼みづらい。
- ・タイコミュニティの特徴かもしれないが、コミュニティ内で頼れるので、一人一人の日本語力がそれほど必要ないと思ってしまう。
- ・どこで勉強できるか情報が無い。自分が（佐久市に）転入してきたときには、市からダイレク

トメールで日本語教室の案内がタイ語で届いた。今はやっていないようだ。せめて、役所の受付のところに、多言語の教室案内が置いてあればよい。

- ・日本語が全くできないと、日本人の先生の教室に行くのは敷居が高い。
- ・日本語学習は、長野市だけでなく県内各地で開いてほしい。興味はみんなある。
- ・日本語の学習は独学。仕事をしているのでなかなか時間が取れない。テレビで覚える。また、学校のプリントで、小学校まではなんとか分かるが、中学校、高校と難しくなり子供に教えてもらったりもする。

《母国語・多言語化》

- ・松本市のフィリピン通訳制度は役立つので、県内の他の地域でも行った方がよい
- ・自動車運転免許試験について、英語も出来たが、「やさしい日本語」や「ふりがな付き」でのテストが欲しい。また、読めても書けない者もいる。
- ・小学校での通訳者を増やしてほしい。
- ・税金も何で払わなければいけないか分からない。丁寧な分かりやすい説明が必要なのに不足している。
- ・日本の基本的な生活のルールももっと分かりたいのに説明が無い。
- ・役場からのお知らせの多言語化。ポルトガル語と中国語はあるのに、英語やタガログ語が無いことがある。
- ・病院もまた多言語での説明が欲しい。病状説明は英語でもしていただきたい。
- ・ゴミの分別は問題となることがある。残されたゴミ袋を「外国人の出したものだろう」と思われ、家に持ってこられるケースもある。⇒松本市はゴミ袋に多言語で説明記載あり。
- ・駒ヶ根では役場でせっかく日本語教室を開催してくれるのに、そのチラシが日本語しか書いてないので分からない。参加しているのは三・四名。
- ・松本には多言語の生活ガイドが作成されているが、みんながそのことを知っているかわからない。
- ・健康診断について。通訳がいなくてもよいが、医者言葉がわかりにくいので、検査についての概要がわかるような説明の紙が多言語であればよい。
- ・運転免許の学科試験について。タイ語もあればよい。書類の書き方や説明を多言語化してほしい。

《日本文化や習慣、日本人への啓発》

- ・学校のPTA役員や地区の役員を引き受けざるを得ないことがあるが、特に旦那さんが協力的でない家は大変。
- ・子供たちは日本の文化的な祭りなど地域での活動への参加もせざるを得ないが、意味も分からなくやらされている感じ。
- ・こどもが自分の母が中国人であることを恥ずかしく思っている。自信を持って育ててほしい。
- ・中国に限らず東南アジア出身者とのハーフの子は、肩身が狭い様子で、もっと自信を持てる環境づくりを進めてもらいたい。
- ・日本人に多文化共生に関する啓発活動を積極的にやってもらいたい。